

Chapter: 謎解き賢治植物[peco]

オキナグサ キンポウゲ科



[click here for larger view.](#)

今年はビンテージもののオキナグサを盗まれ、新しいのを買って植えなおしたものの、土が合わず、今日は必死で土の調整をしていました。

賢治のいた時代は全国的に、陽だまりにたくさん生えていたようで、愛されていただけに名前の方言がいっぱいあります。

賢治は「うずのしゅげ」と書いていましたが、小岩井牧場にはたくさん生えていたそうです。ちょっとエキセントリックで賢治好みがよくわかるような感じですね。

子供が遊んだという記録もあるくらいですが、いまとなつては、絶滅危機に瀕しています。

出典「おきなぐさ」

Chapter: 謎解き賢治植物[peco]

サイカチ マメ科



[click here for larger view.](#)

風の又三郎にでてくるサイカチは、「サイカチ淵」と名のつくくらい大きく古いものなのでしょう。鋭いトゲをさけながら歩いていく、こどもの所作がとても生き生きと想像できます。

写真のこの木は、わたしの家の近くの小さな墓地にあり、今年、クレーンで上部は切り倒されました。高木でトゲがあるからなのかも知れませんが、あとには大きな杭状の幹が残っています。

写真の中央にある、観察していたカラスの巣もなくなり、人間が大手を振って歩けるということでしょう。サイカチなんて、ほとんど見ることもなくなった現在、惜しい気がいたします。

また日本での西洋医学の歴史が浅いことを考えれば、東洋医学の長い歴史の、一助になっていたこともあるようです。

サイカチはわたしの知っている範囲では、もう1本しかありません。それは大学の薬草園です。

サイカチの実はとても大きく、鞘をふるとさらさらマメの音がします。

[◀ Back](#)

[Entries](#)

[Contents](#)

[Next ▶▶](#)